



# エコ・ファーストの約束（更新書）

～ 環境先進企業としての地球環境保全の取り組み ～

環境大臣 笹川 博義 殿

令和8年10月1日

大成建設株式会社  
代表取締役社長

相川 善郎

## 1. 2050年目標：脱炭素社会 | カーボンニュートラルの実現・深化 ＜スコープ1+2およびスコープ3 サプライチェーン CO<sub>2</sub>排出量ゼロ＞

- 2030年度までに、CO<sub>2</sub>排出量を2022年度比で、スコープ1+2を42%削減、スコープ3を25%削減することを目指します。
- スコープ1+2の削減に向けて、オフィスおよび作業所における電力使用については、省エネ活動、自社保有電源による実質再生可能エネルギー化を推進します。また、化石燃料の使用については、施工の効率化、GX建機の導入、代替燃料の導入、省燃費運転等をサプライチェーンと共に取り組みます。
- スコープ3の削減に向けて、脱炭素建材やZEBの開発・普及を推進し、サプライチェーン全体でのCO<sub>2</sub>排出量削減に取り組みます。また、2030年度までに当社設計施工案件のZEB化率を面積比で100%とすることを目指します。
- 環境負荷の少ない資材・建材の調達から、施工・運用・修繕・更新・解体に至るまで、建物のライフサイクル全体で排出されるCO<sub>2</sub>排出量の削減を目指し、ZCB（ゼロカーボンビル）の開発・実証・普及を推進します。
- CCS、CCUSや水素・アンモニア等の新エネルギー活用に関する脱炭素先進技術の開発・実証・普及を推進します。
- 「TAISEI Green Target 2050」で定めた2030年および2050年のCO<sub>2</sub>削減目標について、SBTiから「NEAR-TERM SCIENCE-BASED TARGETS」および「Net-Zero Target」の認定を取得しており、目標達成に向けた取組を推進します。

## 2. 2050年目標：循環型社会 | サーキュラーエコノミーの実現・深化 ＜グリーン調達率100%および建設副産物の最終処分率0%＞

- 作業所において、廃プラスチックを含む特定建設資材廃棄物の分別を徹底し、適正なりサイクルおよび中間処理を推進することで、2030年までに建設廃棄物の最終処分率を3.0%以下とすることを目指します。
- 「大成建設グリーン調達ガイドライン」を活用し、サプライヤーと協働して、設計段階からライフサイクルに配慮した資機材の採用・調達を推進するとともに、建物の長寿命化に資する技術の提供に努めます。
- 動静脈のステークホルダーとの連携を通じ、産業副産物を活用した環境配慮コンクリートの技術開発および普及拡大、ならびに廃プラスチック・ガラス等の建設副産物の再資源化技術の開発・実用化に取り組みます。
- 作業所仮設事務所や本社・支店等のオフィスで使用する物品についても廃棄物の削減、再利用、リサイクルの3Rを推進します。

## 3. 2050年目標：自然共生社会 | ネイチャーポジティブの実現・深化 ＜建設事業に伴う負の影響の最小化、自然と共生する事業による正の影響の最大化＞

- 2030年までに、ネイチャーポジティブに貢献するプロジェクトを年間50件以上実施し、ネイチャーポジティブ評価手法を設計・施工プロジェクトの30%へ適用するとともに、海洋課題への対応を推進します。
- ネイチャーポジティブの実現に向け、自然環境の保全や生物多様性の向上に資する提案、グリーンインフラの導入や30by30の実現に向けた提案を推進するとともに、自然環境・生物多様性に配慮した施工、運営支援を推進します。
- 良質な自然環境を保全・創出する技術の開発およびステークホルダーとの連携を通じて、環境負荷の最小化と自然への正の影響の最大化に取り組み、生態系の保全・再生を推進します。

### ■ 「森林資源・森林環境」と「水資源・水環境」の2つの個別課題の解決を目指します。

- 「森林資源・森林環境」の課題に対しては、持続可能な木材の利用を進める「つかう」、森林を再生する「つくる」、良質な森林を保全する「まもる」取り組みを推進します。
- 「水資源・水環境」の課題に対しては、水資源の保全と再生に向け、ゼロウォータービル（建物内での水消費を水道水に依存せず、雨水・排水の浄化・再利用などにより実質ゼロにする環境配慮型の建物）などの技術開発やサービスの開発・普及により自然と共生する取り組みを推進します。

大成建設株式会社は、上記の取組の状況を確認し、環境省へ報告すると共に環境報告やホームページに公開します。



大成建設株式会社

For a Lively World